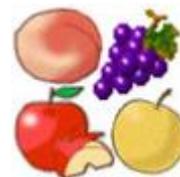


令和2年度 果樹情報 第19号

(令和3年3月22日)
果樹の発芽、発芽・開花予測
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (3月前半、果樹研究所)

3月の平均気温は、1半旬が7.5℃で平年より3.9℃高く、2半旬が5.1℃で平年より1.6℃高く、3半旬が8.0℃で平年より3.3℃高く経過しました。

この期間の降水量は28.0mmで平年比84%、日照時間は99.2時間で平年比103%とともに平年並でした。

2 発芽状況 (3月19日現在、果樹研究所)

もも「あかつき」の発芽は3月16日で平年より8日、昨年より3日早くなりました。りんご「つがる」の発芽は3月17日で平年および昨年より9日早くなりました(表1)。

表1 各樹種(品種)の発芽・展葉状況

	発芽観測日			展葉観測日		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	3月16日	3月24日	3月19日	—	—	—
ゆうぞら	3月15日	3月25日	3月19日	—	—	—
幸水	未	4月1日	3月23日	未	4月14日	4月7日
豊水	未	3月30日	3月22日	未	4月10日	4月4日
つがる	3月17日	3月26日	3月26日	未	4月8日	4月5日
ふじ	未	3月27日	3月26日	未	4月7日	4月4日

注) 平年は、1991~2020年の平均値

3 発育予測 (3月19日現在、果樹研究所)

仙台管区气象台が3月18日に発表した1か月予報(3月20日~4月19日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

東北地方1か月予報 令和3年3月18日 仙台管区气象台発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目(3月20日~3月26日)は高い確率80%です。2週目(3月27日~4月2日)は高い確率70%です。3~4週目(4月3日~4月16日)は平年並または高い確率ともに40%です。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合には、なし「幸水」の発芽は3月27日頃で平年より5日早く、りんご「ふじ」の発芽は3月18日頃で平年より9日早いと予測されます(表2)。また、もも「あかつき」の開花始めは4月6日頃で平年より7日早いと予測されます(表3)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表2 発芽予測日 [予測方法:発育速度(DVR)モデルによる発育予測]

	発芽日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
幸水	3月23日	4月1日	3月28日	3月27日	3月30日
ふじ	3月26日	3月27日	3月18日	3月18日	3月18日

注) 発芽日の平年は1991~2020年の平均値。

表3 開花予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測]

	開花日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	4月1日	4月13日	4月9日	4月6日	4月13日
幸水	4月16日	4月20日	—	—	—
ふじ	4月26日	4月26日	—	—	—

注) 開花日の平年は1991～2020年の平均値。

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 病虫害防除上の留意点

発芽期が平年より早まっているため、防除時期が遅れないように注意し、発芽前の防除は温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園等で枝幹にいぼ病斑がみられる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(2) もも

昨年秋季は新梢葉でのせん孔細菌病の発生が多かったため、伝染源である枝病斑の発生量は多いと予測されています（3月15日付け令和2年度病虫害発生予察情報・発生予報第14号）。**春型枝病斑は発芽10日後頃から発生がみられる場合があるため、病斑の早期発見とせん除を徹底し、病原菌の初期密度の低下を図りましょう。**また、開花直前の防除が遅れないように注意しましょう。

ハマキムシ類の発生が多い場合は、発芽期から開花期前後に防除を実施しましょう。なお、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意しましょう。

(3) なし

果樹研究所における黒星病の子のう胞子の初飛散はまだ確認されていませんが、昨年は3月17日に確認されており、本年も気温が平年より高く経過していることから、子のう胞子の飛散は早まることが予測されます。そのため、発芽一週間後の防除は遅れないように実施しましょう。

なお、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑がみられる枝は芽基部感染のおそれがあるので、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

(4) ぶどう

晩腐病の防除のため、休眠期の防除を徹底するとともに、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

ハダニ類の発生がみられる園では、休眠期に防除を実施しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>